

長浜との浅からぬ関わりを知ろう！

豊臣秀吉に仕え、

巧みな弁舌と奇抜な軍略で活躍した黒田官兵衛は、戦国乱世にあつて

一度も負けを知らなかったという天才軍師である。

その官兵衛を主人公とするNHK大河ドラマ

「軍師官兵衛」の放映がいよいよ始まる。

ドラマをより楽しむ上でも、

官兵衛と長浜との関係について知りたいと、

長浜城歴史博物館副館長の太田浩司学芸員を訪ねた。

太田さんによれば、官兵衛と

長浜（湖北）との関わりは3点にまとめられるという。

官兵衛の出自を辿ると 長浜は黒田家発祥の地

黒田家の正史とされる記録『黒田家譜』に「宗清始て江州伊香郡黒田の里に住し、黒田氏を称せしより以来、代々黒田を氏とす」とあり、「黒田の里ハ餘湖の海のあたりにあり」と続く。宗清とは黒田家の祖で、

6代にわたつて黒田村に住んでいたと同書は記す。ちなみに官兵衛は9代目に当たる。

近江国の地誌『近江輿地志略』には、黒田村の、穂先長者墓の項に「黒田の元祖佐々木黒田判官宗清の在所也といふ」の記載が見られる。また「江州佐々木南北諸士帳」では、黒田城主として官兵衛の曾祖父

「黒田右近太輔高政」の名が残る。これらのことから、宗清が黒田村に住み始め、地域の領主として黒田判官と称したのが黒田家の始まりとされている。

伊香郡黒田村は、今の長浜市木之本町黒田である。地区の集会所が建つ周辺は「構屋敷」と呼ばれ、黒田家の屋敷跡と地元では伝えられてきた。広さは一町（約109メートル）四方に及び、周囲には堀を巡らせていたらしい。昭和48年、集会所の建て替え工事中に「源宗清」と刻まれた御影石の石塔が見つかった。黒田氏は宇多源氏（第59代宇多天皇を祖とする源氏）で、『黒田家譜』の記述にある黒田家の始祖「宗清」に一致すると考えられ、この石塔を祭るよう御廟所が建てられた。現在には「黒田氏旧縁之地」という石碑と共に「黒田家始祖御廟所」として整備されている。

息子、
長政が
人質として
長浜城に
置かれていた

官兵衛の曾祖父、黒田高政の時代、將軍足利義植を擁立する細川高国と前將軍足利義澄を擁立する細川澄元との間で戦いが起きた。永正8（1511）年の船岡山の合戦である。高政は義植に従ったが、軍令に背いたことをとがめられて備前国福岡（岡山県瀬戸内市長船町福岡）に移った、と『黒田家譜』にある。その後、黒田氏は播磨国姫路（兵庫県姫路市）に移り、官兵衛の父、職隆のときには御着城主、小寺政職に属した。この地で官兵衛は生まれた。官兵衛の先見性を示す逸話として、主である政職へ織田信長に付くよう、いち早く進言したことが『黒

田家譜』に記されている。同書によれば、このとき官兵衛は忠誠の証に子息、松寿丸（後の長政）を人質として差し出している。松寿丸は信長が秀吉に預け、長浜城に置かれていたという。

この話には続きがある。信長に反旗を翻した荒木村重を説得するため官兵衛が村重の居城 有岡城へ赴くのだが、幽閉されてしまう。戻らない官兵衛に疑念を抱いた信長は人質の松寿丸を殺すことを秀吉の家臣、竹中半兵衛に命じた。半兵衛は官兵衛を信じ、信長に松寿丸を

殺さないよう忠言する。しかし、説得は無理として、松寿丸をかくまった。翌年になって官兵衛は助け出され、松寿丸も信長の許しを得て、人質から解放された。後年、「二兵衛」と称される官兵衛と半兵衛。その信頼関係を物語るものだが、確かな史料も残っており、実話である。

古文書で確認された 賤ヶ岳合戦への参戦

信長の死後、秀吉と柴田勝家による後継者争いは、賤ヶ岳合戦で決

着がついた。この戦いに勝利したことで、秀吉の天下統一の基礎が築かれた。『黒田家譜』によれば、官兵衛も長政とともに参戦している。これまで官兵衛の賤ヶ岳合戦への参戦は同書の記述にしかなく、確かなこととはされていないが、秀吉の賤ヶ岳合戦における指令書が発見され、そこに官兵衛の名が見られることで確認された。

見つかった古文書は秀吉が弟の秀長に宛てた合戦指示書で、総攻撃のために秀吉方が守る砦周辺の小屋を壊すように命じている。官兵衛



1 賤ヶ岳合戦において、秀吉が具体的な戦略を描いた古文書（長浜城歴史博物館蔵）



2 木之本町黒田の集会所の東隣にある「黒田家始祖御廟所」。左の「黒田氏旧縁之地」と刻まれた石碑は昭和2年に地域住民によって建てられた



3 羽柴（豊臣）秀吉と柴田勝家が覇権を争った賤ヶ岳合戦の戦場跡。賤ヶ岳山頂近くまではリフトが運行（冬期休業）しており、山頂からは琵琶湖や余呉湖、伊吹山などが一望できる。古戦場跡には戦跡碑や戦没者の碑が立てられており、地元出身の彫刻家、須川常美の「武者の像」もある



4 秀吉が築いた長浜城。昭和58年に歴史博物館として再興された。館内では秀吉や長浜に関する資料の展示のほか、長浜の歴史や文化、ゆかりの人物なども紹介している



長浜城歴史博物館副館長の太田浩司学芸員

らにも同じように小屋の破壊を命じたことが記されている。日付は3月30日とあり、年号は記されていないものの天正11（1583）年の間違いない。賤ヶ岳合戦の直前に出されたものだ。

同書を所蔵する長浜城歴史博物館の太田浩司さんは、この書き置きによつて3つの史実が明らかになったと話す。まず、官兵衛が賤ヶ岳合戦に参戦していたことの裏付けが取れたこと。次に、秀吉自身が戦略を立て、指示をしていたことが確認できたこと。官兵衛らに小屋の取り壊しや、前線から撤退することがないよう命じている。最後に、砦の外には小屋（野営地）があったこと。賤ヶ岳合戦に関する史料として貴重な文書であるという。

残念ながら長浜では大河ドラマの口ケはないようだが、以上のように官兵衛は長浜とは少なからず縁があり、少しは身近に感じられるのでは。1月19日からは「黒田官兵衛博覧会」も開催されるので、ドラマと合わせて楽しみたい。

黒田官兵衛博覧会 平成26年1月19日（日）～12月28日（日）※会期中は各会場とも無休

大河ドラマ館（戦国大河きのもと館）

メイキング映像や衣装展示など、大河ドラマ「軍師官兵衛」関連を中心に紹介するほか、賤ヶ岳合戦のジオラマなどを展示。

歴史館（長浜城歴史博物館）

官兵衛やその同僚である秀吉家臣のこと、官兵衛も活躍した秀吉の戦いについてを、実物資料や写真パネルで紹介。

城下まち館（曳山博物館特設会場）

秀吉が築いた長浜城下町と、ゆかりの武将たちを物語形式で紹介。

そのほか、大河ドラマ館や官兵衛ゆかりの地を巡る周遊バスの運行や、語り部ツアーなども企画されている。詳細は、黒田官兵衛博覧会事務局ホームページ（<http://kitabiwako.jp/kanbee/>）を。

黒田官兵衛

天文15（1546）年11月29日、姫路城で生まれる。実名は孝高といい、長じて官兵衛、勘解由と称し、晩年は如水と号した。早くに信長の将来性を見抜き臣下となり、秀吉のもとでは軍師として「中国大返し」「山崎の合戦」「賤ヶ岳合戦」などで功をあげた。天正17（1589）年、家督を長政に譲ったが、その後も「小田原攻め」「朝鮮出兵」など、秀吉に従った。さらに、関ヶ原の戦いでは徳川家康に与して活躍した。慶長9（1604）年3月20日、京都伏見の藩邸で59年の生涯を終える。



黒田如水像 一幅（福岡市美術館提供）